

生活単元学習学習指導案

指導者 T1 大津賀 夢奈 T2 中田 美緒

- 1 日時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:45)
- 2 年組 小学校特別支援学級 中学年 計3名(3年生2名, 4年生1名)
- 3 場所 小学校特別支援学級 中学年教室
- 4 単元名 クラス発表会—「にじいろのさかな」の劇をしよう—
- 5 単元について

本学級には、3年生(女子1名, 男子1名)と4年生(男子1名)が在籍しており、この3名で同じ学級で過ごすことが2回目となる。低学年段階を同じ学級で過ごしていることから、互いをクラスメートとして認識し、学級内で心地よく過ごしている様子が見られる。一方、コミュニケーション面での実態差が大きいことや、相手への興味関心の程度に差があること等から、学校生活の中で自分から友達と関わり合う場面は少ない。朝の会や帰りの会等、日々の繰り返しの場面については、児童自身が確実に見通しをもっているため、児童同士で当番の友達に言葉掛けをしたり、友達からの言葉掛けに応じたりする様子が見られる。日常生活でも、教師からの促しに応じて優しく友達に声を掛けたり手を差し伸べたりする姿は見られるようになってきている。

3名とも、興味関心がある内容については、集中して積極的に取り組むことができる。「できた」という達成感を得たときには、「できた!」と発言する児童、「100点」や「👍」の文字を見て笑顔を浮かべる児童、他クラスの教師にも出来事を共有しようとする児童と、それぞれの方法で喜びを表現している。一度達成感を感じたことと同一の行動や学習プリントであれば、以前の達成感と結び付けて意欲的に取り組むことができるが、一部でも変更点があったり見た目が変わっていたりすると、以前の「できた」喜びを想起することが難しくなり、活動への取り組みが消極的になってしまう。

以上のような実態を踏まえ、友達と関わり合って物事を進めていくことや意欲的に活動に取り組むことをねらいとして、本単元「クラス発表会—『にじいろのさかな』の劇をしよう—」を設定した。劇の取り組みは、3名とも1年時より毎年クラス発表会の経験を積み重ねているため、具体的にイメージをもって意欲的に取り組むことができる単元であると考えている。

「にじいろのさかな」では、児童が一人一役を担い、物語が進んでいく。セリフは友達に向かって伝えたり、友達と一緒に伝えたりするものが多くある。また、友達のセリフに対して自分のセリフを伝えるなどの掛け合いの場面も多い。そのことにより、友達のことを気に掛けたり、友達の行動に着目して自分の行動を調節したりする姿が見られるようになると思う。

「にじいろのさかな」で取り扱う場面は、日々の学級内で見られる様子や実際の児童同士の関わり合いの様子等、日常生活で起こる実体験を交えて構成している。劇という非日常的な行事の取り組みの中に日常生活との関連を取り入れることで、児童が日々の「できた」経験を生かして役を演じたり、劇の中の「できた」を日常生活で実践したりする姿が見られるようになると思う。また、劇と日常生活とがつながることで、登場人物の気持ちに合ったセリフを考えて発言したり、場面に適する表情を浮かべたりする姿が期待できる。

指導に当たっては、友達との関わり合いを児童自身が意識できるように、毎時間動画を用いて振り返りを行い、目標行動が表れている姿を全員で共有する。その場面については、毎時間分教室に掲示し、児童がいつでも自分の姿を確認できるようにする。また、劇で取り入れる日常生活場面について、実際の児童の様子を録画し提示することで、劇の場面について考えるきっかけとしたり、日常生活と劇とを円滑につなぐきっかけとしたりしていきたい。

本単元を通して、自分から友達と関わり合ったり、友達からの働き掛けに適切に応じたりする姿や、日々の「できた」経験を自信につなげ、様々な活動に意欲的に取り組む姿が多く見られるようになることを期待している。

6 単元の目標

- (1) 劇の中で自分の役や動きが分かり、意欲的に活動に取り組むことができる。【知識・技能】
- (2) 友達とのやりとりの中で、自分の思いを伝え合う力を高めることができる。【思考・判断・表現】
- (3) 「できた」経験を自信につなげ、さらなる活動に取り組んでいこうとすることができる。

【学びに向かう力・人間性】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質能力」との関連

具体的な児童の姿	
<ul style="list-style-type: none"> 劇の中で、自分で考えて行動したり、分かって動いたりすることで成功体験を積み、自信や達成感を持ち、進んで劇に取り組むことができる。 劇の中で、友達とやりとりをしたり、声を掛けて一緒に活動したりすることで、友達のことを気に掛けて行動することができる。 	
手立て【関連する教師の資質能力】	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本の場面と日常生活にある実際の場面とを関連付けてセリフや動きを考えることで、日々のやり取りを踏まえて劇の中で役を演じることができるようにする。【授業構想力・意欲を育てる工夫】 ○ ペープサートで自分の役の動きを表したり場面に合う言葉を考えたりした後に演じることで、場面に合った表現や演じ方について考えることができるようにする。 【授業実践力・課題解決に向けた思考力、判断力、表現力等を育む指導】 ○ 単元を通して同じ観点について振り返りを行い、継続的に自分の姿を見ることで、目指す姿を明確に認識できたり、以前との変化を感じ、「できた」を実感したりすることができるようにする。 【授業分析・評価力・段階的な指導を行うための見取りや分析、授業改善】 	

7 指導計画（全20時間）

次	時	学習内容
1	1～3	《劇の練習をしよう》 物語を知る
	4～9	場面ごとの練習をする（本時9/20）
	10～14	劇の練習をする
	15～16	リハーサルをする
2	17～19	《クラス発表会をしよう》 劇を発表する・他のクラスの劇を見る
3	20	《振り返ろう》 劇の取り組みを振り返る

8 本時の目標

自分の役割や出番が分かり、友達と一緒に活動したり、タイミングよくセリフを言ったりして、劇の中で自分の役を演じることができる。

9 個別の目標（個別の指導計画から）

児童	実 態	目 標 行 動
⑦	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを文章で相手に伝えることができる。 集団の意識が薄く、友達や周囲の人と共に活動しようとしたり、自分から相手に声を掛けたりすることが難しい。 	○ 劇の中で、友達に声を掛けて一緒に登場したり、タイミングを合わせてセリフを言ったりすることができる。
⑧	<ul style="list-style-type: none"> 興味のあることは自分から活動に取り組むことができる。 周囲の言葉掛けを受けて、行動を切り替えることができる。 	○ 劇の中の登場のタイミングで、友達と手をつないで登場したり、友達からの言葉掛けを受けて声を出したりポーズを取ったりすることができる。
⑨	<ul style="list-style-type: none"> 自信のあることには意欲的に取り組むことができるが、初めてのことや不安なことに対しては、活動に取り組むことが難しい。 	○ 自分の出番でタイミング良くセリフを言ったり、行動したりすることができる。

学習の展開

学習活動	目標行動 (○) ・及び 支援 (・)		
	⑦	⑧	⑨
1 始めの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 全員が姿勢を正した状態で始めることができるように、当番の児童に友達の様子を確認するよう、言葉掛けを行う。 		
2 前時を振り返り、できるようになったことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時での目標行動に沿った場面を具体的に思い返すことができるように、写真や動画を提示して問い掛けを行い、📌を書いて黒板に掲示する。 		
3 本時の流れを知るとともに、ペープサートを見て、本時で取り扱う場面を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動について見通しをもつことができるように、活動内容をナンバリングして示す。 自分の演じる役の動きを意識することができるように、ナレーションに合わせてペープサートを動かしたり、セリフを発言したりする活動を取り入れる。 		
4 相手に物を受け渡す際にどのように伝えたと良いか、言葉を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 劇の中でうろこを受け渡す場面のセリフにつなげられるよう、ペープサートでも実際のやり取りを取り入れて考えることができるようにする。 		
5 うろこを配る場面を演じる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 劇の中で、友達に声を掛けて一緒に登場したり、タイミングを合わせてセリフを言ったりすることができる。 ・ 自分の行動について考えることができるように、「一緒に」というキーワードを用いて動きを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 劇の中の登場のタイミングで、友達と手をつないで登場したり、友達からの言葉掛けを受けて声を出したりポーズを取ったりすることができる。 ・ 行動やセリフを分かって動くことができるように、友達がやり取りしている場面を見ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の出番でタイミング良くセリフを言ったり、行動したりすることができる。 ・ 自分の出番を分かって動くことができるように、役名を呼び掛けてナレーションしたり、アイコンタクトを取ったりする。
6 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 目標行動に沿った場面について振り返りを行うことができるように、タブレットを用いて写真や動画を提示して問い掛けを行い、📌を書いて黒板に掲示する。 		
7 「アンダー・ザ・シー」を踊る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分で身体を動かして踊ることができるように、一緒に踊ったり踊りを声に出しながら伝えたりする。 		
8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 全員が姿勢を正した状態で終わることができるように、当番の児童に友達の様子を確認するよう、言葉掛けを行う。 		